

図書館の役割・意識・運営

- 館長就任にあたって -

平 山 忠 一

学生の皆さん

新入生の皆さんも入学後、前期の試験が終了して大学生としての過ごし方、学び方がだいぶ飲み込めてきたことでしょう。入学当時、新入生の約50%が図書館ガイダンスに参加してくれ、あなた達各人の今後の大学生活に対する前向きで真剣な姿を見ることができて大変喜んでいました。

図書館では、学生の学園生活、とりわけ進むべき専門分野を探る道しるべとして“熊大探検”コーナー（ASPECT熊大）を設けました。ここには全学の教官寄贈の著作物、作品、各種報告書などが並べられています。是非、手に取って見てください。その中に皆さんが探している進路を発見できるかもしれません。

また、授業計画書（シラバス）の中で推薦された参考図書は全面的に購入しました。是非とも授業の参考に利用して下さい。今後は、学生用図書として、各教育分野での基礎図書（大学としてあるべき図書、シリーズものなど）の購入も積極的に考えていきます。それ以外にも学習に役立つと思う図書があれば購入希望を出して下さい。

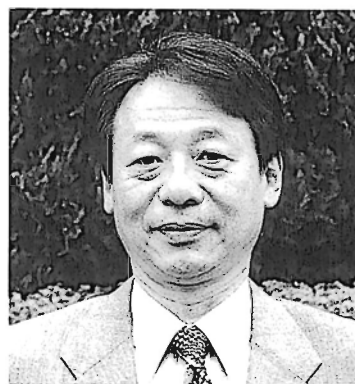
さらに、平成12年度からの新カリキュラムに総合科目として“情報メディアとネットワークの活用”を立ち上げ、レポート・論文を書く手だてを実習的学習を通して学ぶことを目的に開講する予定です。今後の諸君の学習のステップアップにつながればと期待しています。

教職員の皆さん

図書館のあり方を考えますと、それは大学が生産する知を集積し循環させるための核であり、教育・研究・社会とかかわる組織であって、大学自体学のあり方と重複してしまう、そんな存在でしょう。大学図書館は大学の内と外の狭間にあって絶えず情報を媒介できる息づかいが必要です。大学の基礎となる学生教育と研究活動の活性化を意識した積極的な取り組みが必要です。

今、日本は大きな危機を乗り越えるため変革がおこなわれています。かつて明治維新、戦後処理がありました。今回は民主的な手法で国民が取り組む初めての試みです。痛みも達成感も我々の手の中にあります。その一環に大学改革があります。少子化と機能不全をどう乗り越えるか知恵が試されています。

熊本大学の個性は何か？ 大学は何をやってきたか、その蓄積はあるか、いま何をやっているか。それらが外から見えるか。多くの問題を抱えたま



ま独立行政法人に向かっています。今後大学は外からの評価で多くが決まっていくでしょう。入学だって高校生は外から大学を覗いて選択する、就職だって企業は外から大学を診ている。研究もしかり。しかしそんな社会に立ち向かえる熊本大学を創らねばなりません。図書館もその一翼を担わねばなりません。

これらのことを意識して、大学図書館のあり方、役割・運営意識・対応をキーワードとして挙げリネージュしてみました。右にそれを示します（図1）。さながらさざ波が伝わっていくようなイメージです。内から外へ、外から内へ意識し対応することで相乗的にレベルを高められ、頼れる図書館の姿にしていけると考えています。

風を掴む図書館

大学図書館には、生涯学習・情報教育を含めたより広く豊かなサービスが求められています。貴重書をはじめとした資料そのもの、資料に基づいた付加情報の提供ばかりでなく、皆さんが自分自身の時間をゆっくり持つことができるスペースもたいへん大事です。資料本体、情報そして空間、それらの中で何か新しい風を感じ掴むことができるような図書館にしなければならないと考え、さまざまな取り組みを進めているところです。

このような時期に本学の大学院自然科学研究科の院生グループがACADIA(国際デザイン協議会)主催のコンペで二位に輝いたとの新聞記事を目にしました。“情報技術と自然の融合”をコンセプトに森をイメージした未来の図書館を設計したもので、読書という行為をとおして利用者同士の新たなコミュニケーションが生まれるという斬新なアイディアで米国のMIT、ギリシャ・アテネ国

立技術大学に囲まれての堂々の入賞でした（図2）。心からお祝いを申し述べたいと思います。

このような若い感性を吸収しながら図書館運営にあたりたいと考えています。

（ひらやま ちゅういち 附属図書館長）

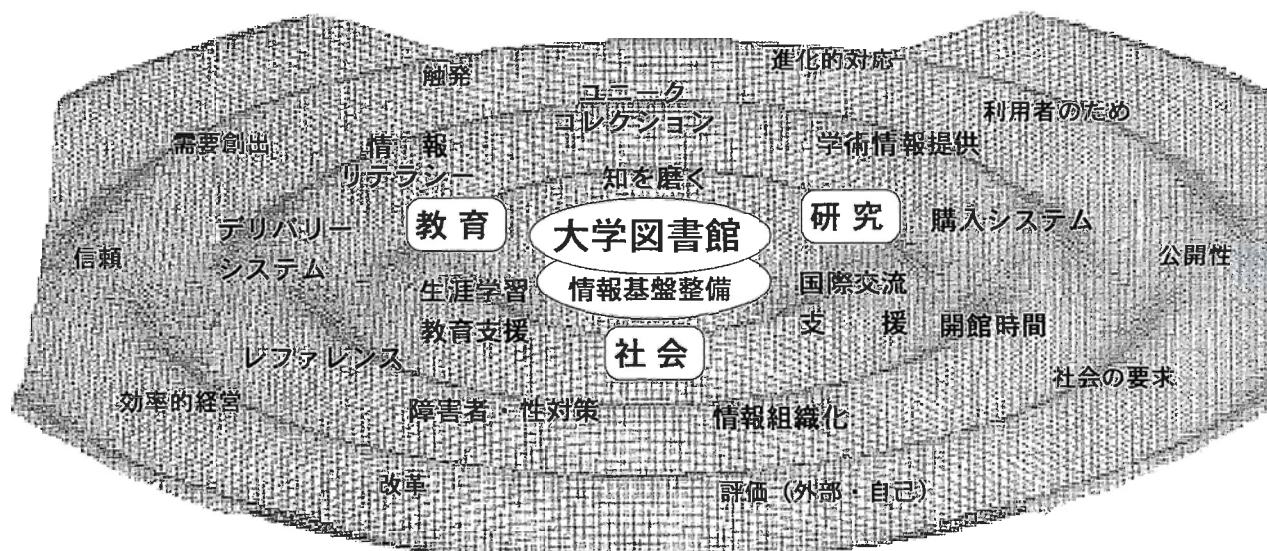


図1 大学図書館を中心にした「さざ波効果」

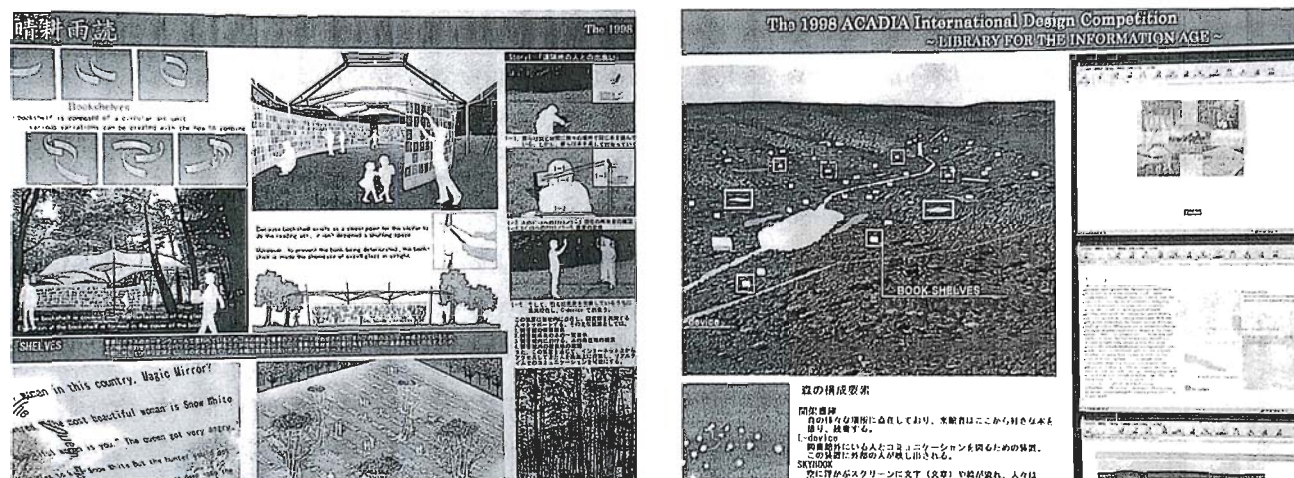


図2 国際コンペACADIAに2位入賞のプレゼンテーション・パネル
（本学大学院自然科学研究科グループ）

URL <http://www.acadia.org/competition/winners.html>